



## よりよい人間関係を育む生徒の姿をめざして ～スクールカウンセラーの活用を通して～

大館市立第一中学校 教諭 簾内 貴典  
教諭 佐々木 司  
講師 千葉 留美子

### 1 はじめに

本校の生徒は全体として落ち着いており、基本的な生活習慣の確立や学校生活への適応の取組が軌道に乗ってきている。「英知・友愛・忍耐」という三つの校訓に加え、「共生の心」を生徒と共に教職員が大切にし、日々の学習や生活に取り組んでいる。「共生の心」とは、具体的には「思いやり・共に生きる・支え合い」と捉えている。そこで昨年度からスクールカウンセラーが複数配置になったことに伴い、これを有効活用しながら、生徒へのよりよい支援のあり方はないかと考えた。

### 2 スクールカウンセラーの複数配置について

昨年(平成24年)度から複数配置となった。配置されたのは以下の3名である。

- ・ S C (A) 大学准教授 … 学校改革推進のプロジェクトのアドバイザー  
～教員研修会の講師、日常の教育実践へのサポート～
- ・ S C (B) 臨床心理士 … 心のケア、ストレス解消、集団の中でのあり方を助言  
※25年度に交代  
～校内適応教室 不登校傾向 その他悩み相談～
- ・ S C (C) 臨床心理士 … 発達障害や病的な内容を専門に扱う  
※神経精神科リハビリテーション室  
～校内適応教室 不登校傾向 その他悩み相談～

### 3 本校の生徒の支援に向けた二年間のスクールカウンセラーの活用について

#### (1) 平成24年度

- 5月 ・校内研修会Ⅰの講師〈育てる生徒指導への転換〉  
→誰もが行きたくなる学校の創成、人間関係づくりについて
- 8月 ・校内研修会Ⅱの講師〈マルチレベルで考える学習支援〉  
→通常学級や特別支援学級における学習支援・サポートのあり方
- ・小中連携研修会の講師〈自信をもって社会で活躍できる生徒を育てる〉  
→9年間で学区の生徒をどのようにして育てていくかの共通実践の模索
- 12月 ・PTA研修会にて保護者向けに講話〈自信をもって社会で活躍できる子に〉  
→保護者にも支援を要請、学校側との連携と協力をお願い
- 1月 ・社会性と情動の学習へのアドバイス〈SEL(ソーシャル・エモショナル・ラーニング)〉  
→日常におけるスキルトレーニング
- 3月 ・生徒会によるいじめ撲滅運動〈かがやき集会〉への助言  
→生徒の生活実態調査、ブルーリボン運動の提案  
※二人の臨床心理士による、生徒や保護者へのカウンセリングを随時実施

## (2) 平成25年度

- ① アセスの継続実施の声かけ(生徒の適応の実態、昨年度データとの比較・現状把握)
- ② 校内外研修の講師
  - ・小中連携(人間関係づくりを推進するためのコミュニケーションスキル能力を考えよう)
  - ・校内職員(話し合い活動の充実、コミュニケーショントレーニング)
- ③ 学級活動(学級担任とのTT指導)への活用
- ④ 進路学習〔鳳雛講座〕での講師
- ⑤ ブルーリボнтаイムの導入のアドバイス

※二人の臨床心理士による、生徒や保護者へのカウンセリングを随時実施

## 4 ブルーリボнтаイム(授業時の話し合い活動)の取組について

### (1) ブルーリボнтаイム実践の理由

教科学習の中でも、生徒の互助精神やコミュニケーションスキルを高めたい(SCからの助言)。

### (2) スクールカウンセラーの授業参観より

- ・現状の把握
- ・改善策と今後に向けて

### (3) 生徒の変容〔アンケート結果から〕

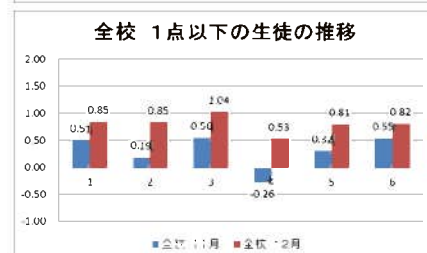
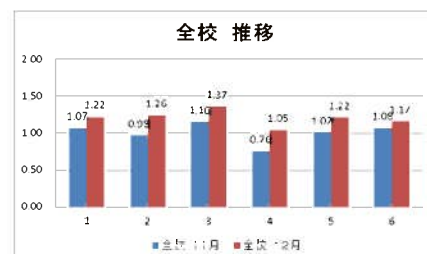
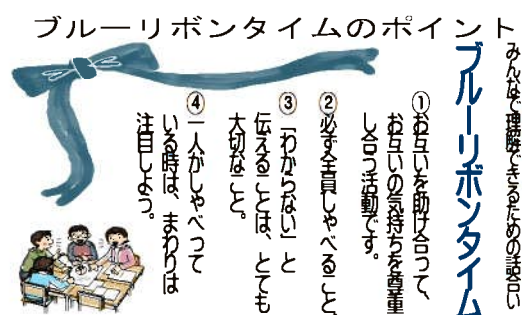
#### 調査項目

- ①一人で考える場面で、自分なりの意見を持っている。
- ②ペアやグループ学習時に、自分の考えを伝えている。
- ③わからないときに、「わからない」と伝えている。
- ④困っている友達に手助けをしている。
- ⑤グループ学習のとき、自分の役割を果たしている。
- ⑥聞くときと話すときとで、態度を切り替えている。

A～Dの4段階で自己評価、

A:+2、B:+1、C:-1、D:-2点として計算。

グラフのように、いずれも伸長が見られる。



## 5 成果と課題

### (1) 成果

- ・専門的アドバイザーの存在(定期的な職員研修の実施、職員へのアドバイス)
- ・教科指導(ブルーリボнтаイム)への支援体制
- ・臨床心理士の専門性を生かしたカウンセリング(チーム支援、信頼関係の向上)

### (2) 課題

- ・常駐ではなく、つねに連絡調整しながら、さらなる有効活用の手段を模索中である。